

| | | | | | |
|------|--|---|--|----------|---|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護学概論 | 単位 1単位 | 「看護とはなにか」「看護師とはどのような職業か」について学び、看護を志す初学者としての基本的な考え方を身につける | | |
| 担当講師 | 木村 幸子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 4 | 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 看護とは | 「看護」及び「看護学概論」を学ぶにあたって | 講義 | 基礎分野 |
| | 2 | | 看護とは | 講義 | 心理学 文化社会学 哲学 |
| | 3 | | 看護の本質 | 講義 | |
| | 4 | | 看護の主要概念 人間・環境・健康・看護 看護の役割と機能 | グループワーク | 専門基礎分野 保健医療論 関係法規 I 関係法規 II |
| | 5 | 看護の対象の理解 | 看護の対象としての人間 | 講義 演習 | 専門分野 I |
| | 6 | | 人間の「暮らし」の理解 健康のとらえ方と国民の健康状態 | | 共通看護技術 I 共通看護技術 II 看護援助技術 I 看護援助技術 II 看護援助技術 III 看護援助技術 IV 看護援助技術 V 基礎統合演習 |
| | 7 | 看護とは | さまざまな看護理論 | 講義 | |
| | 8 | 看護の提供者 | 職業としての看護(看護の変遷) | 講義 | |
| | 9 | | 看護の歴史 | | |
| | 10 | 看護の提供のしくみ | サービスとしての看護 看護をめぐる制度と政策 法的な規定と就業状況 看護における倫理 | 講義 演習 | 専門分野 II |
| | 11 | 看護における倫理 | 倫理とは | 講義 | 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論 |
| | 12 | | 職業倫理としての看護倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 | 講義 | 統合分野 |
| | 13 | 看護の提供の仕組み | 医療安全 | 講義 | 在宅看護概論 看護管理・看護倫理 |
| | 14 | 広がる看護の活動領域 | 国際化と看護 災害時における看護 | 講義 | |
| 15 | これからの看護 | 看護学生に期待すること | 講義 | | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(8割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護の基本となるもの 現代社 看護のための人間発達学 第4版 医学書院 ナイチンゲール看護覚え書 現代社 新訂版 実践に生かす看護理論19 サイオ出版 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|----------------|---|-----|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 共通看護技術 I | 単位 1単位 | 看護を計画的に展開するための看護過程の展開技術を身につける | | |
| 担当講師 | 小林 理絵 看護師臨床経験:7年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 15時間 | | | |
| 教育目標 | 2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | | |
| | 3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 看護過程の展開とは | 看護とは 健康とは 看護理論とは 現象を説明するための枠組み 看護過程とは 看護を具体的に実践するための方法論 | 講義 | 基礎分野 論理学 心理学 人間関係論 哲学 |
| | 2 | 基盤となる考え方 | 問題解決思考 クリティカルシンキング 倫理的配慮と価値判断 リフレクション | 講義 | 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV |
| | | 具体的な方法 | 情報アセスメント 看護問題の明確化 計画 実施 評価 | 講義 | 病態生理学総論 病態と治療 I 専門分野 I 看護学概論 看護援助技術 I 看護援助技術 II 看護援助技術 III 基礎統合演習 |
| | 3 | 情報整理とアセスメントの視点 | 情報整理 枠組みの考え方 事例提示 | 演習 | |
| | 4 | 情報アセスメント | 情報アセスメントの実際 | 演習 | 専門分野 II 成人援助論 I 成人援助論 II |
| | 5 | | | | 老年援助論 III |
| | 6 | 関連図 | 関連図を用いて全体像を明確にしていく | 演習 | 小児援助論 III 母性援助論 III |
| | 7 | | 関連図から看護問題を抽出する | | 統合分野 在宅援助論 III 看護の統合と実践 |
| 8 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(5割) 学習状況(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 看護技術プラクティス第3版 学研 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|---|---|----------|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 共通看護技術 II | 単位 1単位 | 根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を習得するために、看護過程の基本となるヘルスアセスメントの技術を学ぶ | | |
| 担当講師 | 池上 真由美 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | ヘルスアセスメント | ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントの意義、目的 ヘルスアセスメントに必要な技術 ヘルスアセスメントの実際 全体を概観する・健康歴の聴取 | 講義 演習 | 基礎分野 人間工学 心と体の健康 I |
| | 2 | 観察・記録・報告 バイタルサインについて | 観察・記録・報告の意味 バイタルサインとは バイタルサインを測定する意義・目的 バイタルサインの変動因子 バイタルサイン測定の実際 (血圧、脈拍、呼吸、体温、意識) | 講義 | 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 III 解剖生理学 IV |
| | 3 | 身体計測 | 身体的状態のアセスメント 身体計測 身体のみかた:視診・触診・打診・聴診・問診 | 講義 演習 | 専門分野 I 看護学概論 基礎統合演習 |
| | 4 | バイタルサイン測定 | バイタルサイン測定の実際 | 演習 | 専門分野 II |
| | 5 | 呼吸器・循環器系の | 呼吸器系のフィジカルアセスメント | 講義・演習 | 看護の統合と実践 |
| | 6 | フィジカルアセスメント | 循環器系のフィジカルアセスメント 自覚症状の確認 | | |
| | 7 | 腹部のフィジカルアセスメント | 腹部のフィジカルアセスメントの目的 自覚症状 聴診・視診・打診・触診の実際 | 講義 演習 | |
| | 8 | 技術試験 | バイタルサイン測定技術試験 | | |
| | 9 | 骨格筋系のフィジカルアセスメント | 骨格筋系のフィジカルアセスメントの目的 自覚症状の確認 関節可動域の観察 MMT、ADL | 講義 演習 | |
| | 10 | 頭部・頸部・感覚器系の フィジカルアセスメント | 意識とは 頭部のフィジカルアセスメント 頸部のフィジカルアセスメント 耳・目・鼻などのフィジカルアセスメント | 講義 | |
| | 11 | 乳房・生殖器の フィジカルアセスメント | 乳房・生殖器のフィジカルアセスメント | 講義 演習 | |
| | 12 | 心理・社会のアセスメント | 事例を用いた心理・社会のアセスメント | 講義 | |
| | 13 | 症状のアセスメント | 事例を用いた身体面のアセスメント | 演習 | |
| | 14 | | ・基本情報 ・経過表 ・情報収集 ・援助計画の立案 ・個別性のあるバイタルサイン測定、 フィジカルアセスメント | | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(7割)実技試験(1割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|------------------------------------|--|----------------|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護援助技術 I | 単位 1単位 | 看護技術の概念について理解し、看護技術の基本となるコミュニケーション技術を身につける | | |
| 担当講師 | 真島 久美子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 30時間 | 看護における生活環境、安全・安楽について学ぶ 活動と休息・睡眠の援助について学ぶ | | |
| 教育目標 | 1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | | |
| | 2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | | |
| | 3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 看護実践のための技術 | 1. 看護技術とは ① 技術とは ② 看護技術と倫理 ③ 看護技術の特徴 ④ 看護技術の範囲 ⑤ 看護技術の構成要素 ⑥ 技術習得に向けて ⑦ 白衣着用時の身だしなみについて | 講義 | 基礎分野 心理学 人間工学 教育学 哲学 人間関係論 心と身体の健康 I |
| | 2 | 看護者としての関係構築のためのコミュニケーション * 白衣着用 | 2. 関係構築のためのコミュニケーション ① コミュニケーションとは ② コミュニケーションの構成要素 ③ ミスコミュニケーションについて ④ 医療におけるコミュニケーションの特徴 ⑤ 接近的行動とその実際 | 講義 | 専門基礎分野 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学 |
| | 3 | 対象との関わりを効果的にするコミュニケーション1 | 3. 効果的なコミュニケーション ① マイクロカウンセリング技法:傾聴 ② 情報収集の技術 ③ アサーティブネス ④ プロセスレコードによる振り返り | 講義 演習 | 専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I 基礎統合演習 |
| | 4 | 対象との関わりを効果的にするコミュニケーション2 | 4. ベッドサイドでのコミュニケーション | 講義 | 専門分野 II 老年援助論 II |
| | 5 | 多職種連携のためのコミュニケーション | 5. コミュニケーション障害への対応 6. 効果的なカンファレンスのあり方 ① カンファレンスとは | 演習 | 統合分野 看護の統合と実践 |
| | 1 | 環境調整技術 | 援助の基礎知識 療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整 | 講義 | |
| | 2 | | ベッドメイキングの技術 | 演習 | |
| | 3 | 活動休息援助技術 | 基本的活動の援助 基本的活動の基礎知識 | 講義 | |
| | 4 | | 体位・移動 | | |
| | 5 | | 体位変換・移送の技術 | 演習 | |
| | 6 | | 睡眠・休息の援助 | | |
| | 7 | 苦痛の緩和・安楽確保の技術 | 体位保持(ポジショニング) 電法 | 講義 | |
| | 8 | | 身体ケアを通じてもたらされる安楽 ポジショニング・電法 | 演習 | |
| | 9 | 環境調整技術 | リネン交換 | 演習 | |
| 15 | 終講試験 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(7割) レポート(2割) 学習状況(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | うち 真島:筆記試験(3割) | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 ナイチンゲール看護覚え書 現代社 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|---|--|-----|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護援助技術 II | 単位 1単位 | 看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、食事援助技術、排泄の援助技術について学ぶ | | |
| 担当講師 | 山田 緑 看護師臨床経験:7年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 食事援助の基礎知識① | 食事の意義 食事に必要なメカニズム | 講義 | 基礎分野 人間工学 教育学 |
| | 2 | 栄養の評価 | 栄養状態および食欲、摂食能力のアセスメント | 講義 | 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 III 解剖生理学 IV 治療論 II |
| | 3 | 食事の援助 | 食事介助の基礎知識、実際 摂食嚥下訓練の基礎知識、実際 | 講義 | 専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I 共通看護技術 II 基礎統合演習 |
| | 4 | 食事の援助 | 食事介助 | 演習 | 専門分野 II 成人援助論 IV 老年援助論 II |
| | 5 | 非経口的栄養摂取 | 非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法 | 講義 | 統合分野 看護の統合と実践 |
| | 6 | 非経口的栄養摂取 | 経管栄養法 | 演習 | |
| | 7 | 事例検討 | 事例のアセスメント | 講義 | |
| | 8 | 排泄の援助の基礎知識 | 排泄援助に対する基礎知識 排泄の意義とメカニズム 排泄の観察とアセスメント | 講義 | |
| | 9 | | | | |
| | 10 | 自然な排泄を促す援助 | トイレ・ポータブルトイレでの排泄援助方法 床上排泄の援助方法 | 講義 | |
| | 11 | 自然な排泄を促す援助の実際 | 床上排泄援助の実際 | 演習 | |
| | 12 | 排泄機能障害がある対象への援助① | おむつによる排泄援助、導尿・浣腸・摘便・ストーマによる排泄援助 | 講義 | |
| | 13 | 排泄機能障害がある対象への援助② | 浣腸の実施方法 | 講義 | |
| | 14 | 排泄機能障害がある対象への援助の実際 | グリセリン浣腸の実際 | 演習 | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(7割) レポート(1割) 学習状況(2割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|---|---|-----|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護援助技術Ⅲ | 単位 1単位 | 看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、清潔および衣生活援助技術について学ぶ | | |
| 担当講師 | 池上 真由美 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 病床での衣生活の援助 | 援助の基礎知識 衣服を用いることの意義 熱産生と熱放散 被覆気候 衣生活に関するニーズのアセスメント 援助の実際 病衣の選び方 病衣・寝衣の交換 | 講義 | 基礎分野 人間工学 心と身体の健康 I 文化社会学 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV |
| | 2 | | 寝衣交換の実際 | 演習 | |
| | 3 | 清潔の援助 | 清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 清潔の援助の実際 | 講義 | 専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I 専門分野 II |
| | 4 | | 入浴とは・シャワー浴とは | 講義 | 統合分野 看護の統合と実践 |
| | 5 | | 全身清拭の実際 | 演習 | |
| | 6 | | 洗髪とは・口腔ケアとは | 講義 | |
| | 7 | | 洗髪の実際 | 演習 | |
| | 8 | | | | |
| | 9 | | 口腔ケアの実際 | 演習 | |
| | 10 | | 部分浴とは | 講義 | |
| | 11 | | 部分浴の実際 | 演習 | |
| | 12 | | 陰部洗浄の実際 | 演習 | |
| | 13 | 事例を用いた清潔援助 | 事例から考える援助と援助方法 | | |
| | 14 | | 援助の実際 | 演習 | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(5割) レポート(2割) 学習状況(3割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 | | | | |

| | | | | | |
|------|--|---|--|--------------|---|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 2年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護援助技術Ⅳ | 単位 1単位 | 看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、呼吸・循環を整える援助技術、創傷管理技術、死の看取りの援助、感染防止の技術について学ぶ また、対象の意思決定や主体的な参画を支援する学習支援について学ぶ | | |
| 担当講師 | 吉村 久美子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| | 4 | 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 感染防止の技術 | 感染防止の基礎知識 標準予防策 感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 (滅菌物の取り扱い／一時的導尿／持続的導尿) 感染性廃棄物の取り扱い カテーテル関連血流感染対策 | 講義 講義 | 基礎分野 心理学 人間工学 教育学 人間関係論 |
| | 2 | 創傷管理技術 | 創傷管理の基礎知識 (創傷処置／ドレッシング材管理／包帯法) 褥瘡予防の基礎知識 (褥瘡発生要因／判定スケール／褥瘡予防ケア) | 講義 | 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅳ 病態生理学総論 臨床微生物学 病態と治療Ⅳ |
| | 3 | 感染防止の技術 | 感染防止・無菌操作の実際 | 演習 | |
| | 4 | 創傷管理技術 | ①個人防護用具装着 (手袋、エプロン、ガウン、ゴーグル) ②滅菌物の取扱い／無菌操作 ③創傷処置介助(ガーゼ交換) ④導尿(女性) | | 専門分野Ⅰ 看護学概論 共通看護技術Ⅱ |
| | 5 | 看護における学習支援 | 学習支援とは | 講義 | |
| | 6 | | 学習支援の実際(家庭／学校／職場／地域) | グループワーク | 専門分野Ⅱ |
| | 7 | | 健康状態に応じた学習支援の実際 (外来／入院時／退院時／個人／家族／集団) | | 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ |
| | 8 | 学習支援ワーク | 事例に応じた学習支援のロールプレイング | ロールプレイング | 成人援助論Ⅲ |
| | 9 | 呼吸・循環を整える援助 | 酸素吸入療法／酸素ボンベの取扱い | 講義 | 老年援助論 |
| | 10 | | 排痰ケアの基礎知識 | | |
| | 11 | | 排痰ケアの実際 (体位ドレナージ／スクイーミング／咳嗽介助 ハフニング／口腔・鼻腔内吸引) 持続吸引(胸腔ドレナージ) 吸入療法の基礎知識と援助の実際 人工呼吸療法 体温管理の技術 末梢循環促進ケア | | 統合分野 医療安全 看護の統合と実践 |
| | 12 | 呼吸循環を整える技術 | 吸引・吸入の実際 | 演習 | |
| | 13 | | ①酸素ボンベの取扱い ②吸入(ネブライザー)の取扱い ③胸腔ドレナージの取扱い(仕組みに触れる) ④排痰ケア(ハフニング、体位ドレナージなど) ⑤口腔鼻腔吸引 | | |
| | 14 | 死の看取りの援助 | 死亡確認後の援助 死後の処置 | 講義 | |
| 15 | 終講試験 | 筆記試験 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験(7割) レポート(2割) 学習状況(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 | | | | |

| | | | | | |
|------|---|---|--|-----|--|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 2年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護援助技術 V | 単位 1単位 | 看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、与薬に関わる援助技術および症状・生体管理に関わる援助技術について学ぶ | | |
| 担当講師 | 足立 唯 看護師臨床経験:7年以上 教育経験:2年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| | 4 | 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う | | | |
| | 5 | 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 症状・生体機能管理技術 | 症状・生体機能管理技術の基礎知識 | 講義 | 基礎分野 人間工学 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV 治療論 I 治療論 III |
| | 2 | | 検体検査 血液検査 尿検査 便検査 喀痰検査 | 講義 | |
| | 3 | | 生体情報のモニタリング | 講義 | |
| | 4 | | 心電図検査 心電図モニター SpO ₂ モニター 血管留置カテーテルモニター | 講義 | |
| | 5 | 診察・検査・処置の介助技術 | 診察の介助 検査・処置の介助 X線撮影・コンピューター断層撮影:磁気共鳴画像 内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査 核医学検査・穿刺 | 講義 | 専門分野 I 共通看護技術 I 専門分野 II |
| | 6 | 技術試験 | 静脈内採血の目的 静脈内採血時の医師の役割 採血時に起こりうる事故と回避方法 静脈内採血の実際 | 演習 | 統合分野 医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践 |
| | 7 | | 静脈内採血の実際 | 演習 | |
| | 8 | | 静脈内採血(実技試験) | 演習 | |
| | 9 | 与薬の技術 | 薬物療法の意義と看護師の役割 薬物療法の意義と目的 薬に関連した法令 薬物の種類 薬物の種類吸収・分布・代謝・排泄 薬理作用とその影響、副作用 経路別与薬方法と実際: 経口与薬法、口腔内与薬法、直著内与薬法 経皮的与薬法 吸入法、単純塗擦法、点眼・点鼻・点耳法、 注射法とは:適応、メリット・デメリット、吸収速度の違い 注射の種類と目的・方法、合併症:皮内注射、皮下注射 筋肉内注射、静脈内注射、輸液療法 輸液療法を受けている対象の看護 看護師の役割と法的役割 | 講義 | 専門分野 I 共通看護技術 I 専門分野 II 統合分野 医療安全 看護管理・看護倫理 看護の統合と実践 |
| | 10 | | 経口与薬法、口腔内与薬法、直著内与薬法 経皮的与薬法 | 講義 | |
| | 11 | | 吸入法、単純塗擦法、点眼・点鼻・点耳法、 注射法とは:適応、メリット・デメリット、吸収速度の違い 注射の種類と目的・方法、合併症:皮内注射、皮下注射 | 講義 | |
| | 12 | | 筋肉内注射、静脈内注射、輸液療法 | 講義 | |
| | 13 | | 輸液療法を受けている対象の看護 看護師の役割と法的役割 | 講義 | |
| | 14 | | 輸血法と管理 | 演習 | |
| | 15 | | 皮下注射・筋肉内注射・輸液療法の実際(プライミング) | 演習 | |
| | 16 | 終講試験 | 筆記試験 | | |
| 評価方法 | 筆記試験(7割) レポート(1割) 実技試験(1割) 学習状況(1割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 | | | | |

| | | | | | |
|------|-------------------------------------|---|---|---------------|---|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 1年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 基礎統合演習 | 単位 1単位 | 共通看護技術 I・II および看護援助技術 I～III で修得した看護基本技術を統合させ、患者の状態に応じた看護ができる能力を身につける また、記録・報告の技術を身につける | | |
| 担当講師 | 小林 理絵 看護師臨床経験:7年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 2 | 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| | 4 | 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 5 | 看護過程の展開 | 看護過程の展開 看護計画立案 評価 | 講義 グループワーク | 基礎分野 論理学 心理学 教育学 |
| | 6 7 | 実践・評価 | 看護計画の実施 | 演習 | 人間関係論 哲学 文化社会学 |
| | 8 | | シミュレーション演習 | 演習 | |
| | 9 14 | | 看護計画の実施 | 講義 演習 | 専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV 病態生理学総論 病態と治療 I 病態と治療 II 病態と治療 III 病態と治療 IV 病態と治療 V |
| | 15 | 看護記録 | 看護記録とは 記録、報告 | | 専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I 共通看護技術 II 看護援助技術 I 看護援助技術 II 看護援助技術 III 専門分野 II 成人援助論 I 成人援助論 II 老年援助論 III 小児援助論 III 母性援助論 III 統合分野 在宅援助論 III 看護の統合と実践 |
| | 評価方法 | レポート(5割) 学習状況(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | |
| | テキスト | 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 看護技術プラクティス 第3版 学研 | | | |

| | | | | | |
|------|----------------------------------|---|--|----------|---|
| 教育内容 | 専門分野 I 基礎看護学 | 時期 2年次 | 科目のねらい | | |
| 授業科目 | 看護研究 | 単位 1単位 | 看護研究に必要な基礎的知識を身につけ、研究に取り組むことができる | | |
| 担当講師 | 富澤 理恵 臨床経験:3年以上 教育経験:10年以上 | 時間数 30時間 | | | |
| 教育目標 | 1 | 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う | | | |
| | 3 | 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う | | | |
| | 5 | 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う | | | |
| 学習内容 | 回 | 項目 | 内容 | 教授法 | 関連科目 |
| | 1 | 始めようー看護研究 | 研究プロトコール、研究デザイン | 講義 | 基礎分野 論理学 情報科学 哲学 心理学 人間関係論 |
| | 2 | | 研究の倫理 *記事に関する考察 | | |
| | 3 | | 看護研究の紹介 質的研究、量的研究 | 講義 | |
| | 4 | 研究テーマを考える | 文献検索、論文抄読 クリティーク 研究進行の発表 文献レビューの発表 | 講義 演習 | 専門基礎分野 専門分野 I 看護学概論 共通看護技術 I |
| | 5 | ケーススタディーを始めよう | ケーススタディについて 事例研究論文の抄読、クリティーク | 講義 演習 | 専門分野 II |
| | 11 | | ケーススタディ骨組み作成 ケーススタディーレポート作成 ケーススタディをデザインする ケーススタディーを発表する ポスターまたはPC発表 | | 統合分野 |
| | 12 | ケーススタディ作成 | | 演習 | |
| | 13 | | | | |
| | 14 | ケーススタディ発表 | | 発表 | |
| | 15 | | | | |
| | 評価方法 | レポート(5割)発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする | | | |
| | テキスト | 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 | | | |